

慶應 EU 研究会 2010 年 5 月 22 日

成果と課題

譲原瑞枝（国際交流基金）

EU では近年、域内と域外の両方で行われる文化交流を指して「インターカルチュラル」という言葉が多く用いられるようになったが、域外との関係における文化活動が研究の対象とされることはほとんどない。そこで、本報告は対外的な「インターカルチュラル」活動に焦点をあて、その政策手法と理念を考察した。EU 対外政策の枠組みで文化に重点を置く代表例として挙げられるのが欧州地中海パートナーシップなどである。これは EU とパートナー国間のインターカルチュラルな対話を通して相互理解を増進することを目指している。その実現に向け、国家以外の文化機関などのアクターも含めたマルチな協力体制やネットワーク形成を促進する政策スタイルが採用されているが、報告ではこうした手法を行うこと自体がプログラムの目的とみなされていることを指摘した。さらに、このような手段の目的化の背景として、文化交流の目的とその成果を考えるうえで、何を基準にしているかに評価をするのか、という、文化に関連する政策全般に共通する問題が存在していると論じた。今回の報告では、あえて文化交流政策という視点にフォーカスを絞り EU の対外関係を考察したが、対外的な文化活動をより広い国際情勢の流れや、EU 外交政策の発展の文脈に位置づけていくのが今後の課題である。